

睡眠遠隔医療分科会

1. 分科会の目的

ICT を活用し、睡眠医療の診断及び治療全般のレベル向上を図り、僻地・海外を始めとする対面診療が困難な状況における遠隔医療のあり方について、多様な視点から検討および提言を行う。

2. 令和 6（2024）年度活動実績と成果

2024 年 11 月に開催された遠隔医療学会では、睡眠遠隔医療分科会として「オンライン診療時代の適切な睡眠遠隔医療を再考する」を議論するため、下記の発表を行った。

- ・後平 泰信「他法人間における遠隔 PSG の取り組み」
- ・吉嶺 裕之「CPAP のオンライン診療と生活習慣病管理」
- ・高江洲 義和「睡眠障害診療におけるオンライン診療の可能性と課題」
- ・上野 太郎「プログラム医療機器を用いた不眠症診療」

2024 年 1 月に睡眠時無呼吸症候群患者の CPAP をオンライン診療で管理する上での指針

(<https://telemed-telecare.jp/?p=1144>) を示したことを受けて、2024 年 6 月令和 6 年度診療報酬改定において在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料 2 を算定すべき指導管理を情報通信機器を用いて行った場合について明記された。

3. 令和 7（2025）年度活動計画

睡眠時無呼吸症候群の CPAP 療法におけるオンライン診療が、情報通信機器を用いた疾病管理のひとつとして認識されるようになり、今後のオンライン診療の拡大に期待が集まっている。一方で睡眠薬処方に係るオンライン診療については、診療において発生しうるリスクが問題視されるようになっており、適切な睡眠医療が行われるための議論が求められている。適正な形で CPAP のオンライン診療を含めた睡眠遠隔医療が行われていくよう、分科会として情報発信を行う。

不眠症の認知行動療法におけるデジタル療法の役割、遠隔監視システムを用いた睡眠ポリグラフ検査の精度評価などについても、これからの潮流を見据えて分科会としてエビデンス構築を目指し、議論を前に進めたい。